

マリエラ・カストロ インタビュー、CENESEX 本部にて

マリエラ・カストロ、1962年ハバナ市生まれ。父親はラウル・カストロ現国家評議会議長、母親はビルマ・エスピ元キューバ女性連盟(FMC)会長。キューバ全国性教育センター(CENESEX) 所長、社会学博士。国会議員。3人の子供の母親

三月末、ハバナ市の新市街にあるキューバ全国性教育センター(CENESEX)の本部を訪し、同センターの所長のマリエラ・カストロさんとインタビューを行いました。

—今日は三つのテーマをお聞きしたいと思います。まず、第一は、LGBT(性的マイノリティ)の問題がどのようにキューバで議論されるようになったのか、次にキューバにおいて男女差別の現状はどういうものか、最後に現在議論されているキューバ経済・社会モデルの性格規定の中で、女性問題はどのように位置づけられているかということです。

☆革命が直面したスペインの植民地文化・慣習

2010年12月日本を訪問しましたが、大変気に入りました。7つの講演が開催され、スケジュールがびっちり組んであり疲れましたが、とても日本が気に炒りました。大変寒かったのでぜんそくに困りました。丁度今3月末ですが、桜の季節ですね。とてもきれいな花ですね。

ご存じのように、キューバの先住民は、スペイン人により植民地化され絶滅し、その後アフリカより黒人が連行され、1959年革命が勝利時にはスペイン系の白人とアフリカ系黒人、その混血という人種構成でした。したがって、スペイン人の文化、白人優越主義、家父長制、同性愛嫌悪観が支配的でした。カトリックが押し付けられましたが、人々の間では支配的ではなく、アフリカ起源の宗教が支配的でした。ですからスペインからの独立は、単に独立というのではなく、女性の独立をめざすものであり、ヨーロッパの女性運動の影響も受けました。キューバは、ラテンアメリカで最初に鉄道が引かれ、電話が開通した国であり、妊娠中絶も最初に認められた国でした。革命勝利前は、スペインの社会法により同性愛は禁止され処罰の対象となっていました。



ビルマ・エスピ、1958年シエラ・マエストラ山中で

フィデル・カストロは、1953年革命ののろしを上げたモンカダ兵営襲撃後に逮捕され、自己の弁論「歴史は私に無罪を宣告するであろう」で女性の地位向上、差別の克服を訴えています。7・26運動は、様々なキューバの女性運動も統合し革命運動を進めました。そこで革命が勝利すると女性問題が真剣に取り組まれます。1959年サンティアゴ・デ・チーレで

開催された世界女性大会に母ビルマ・エスピが参加しました。1960年にはキューバ女性連盟（FMC）が設立されますが、フィデルのイニシアチブで取られましたものでした。革命勝利後、最初に制定された革命法では、長い間の希望であった男女同一賃金がうたわれました。ヨーロッパの先進国でもまだ実現していないときです。その時以来、キューバの社会変革の過程に多くの女性が参加するようになりました。女性の要求で1972年性教育が学校教育に組み入れられました。1962年女性専門誌『ムヘーレス』が創刊されました。この雑誌では、女性が抱えるいろいろな問題、家族間の問題、仕事の問題、栄養、家族計画、避妊の方法、妊娠期間の問題、女性の権利の向上などをテーマとして扱いました。1960年の識字運動には、女性が大きな役割を果たしました。

もう一つの問題でキューバ女性連盟が、保健省と協力して取り組んだ問題は、妊産婦死亡率の改善です。当時10万人の出産につき



妊産婦死亡は者120人でした。当時闇の妊娠中絶手術が行われていました。費用も高く、危険なものでした。其れを防ぐには罰則規定を設けるべきと主張するひともいましたが、キューバ女性連盟はそれに反論して、1965年、保健省と協力して、4つの目的の下に自発的な中絶を行うということで合法化されました。まず第一に女性の生命を救うということです。その結果、

妊産婦の生命を救うことができ、翌年、妊産婦死亡率は半分にまで減りました。その後、1966年60人、30人、20人と減り、現在20~21人台を維持していますが、さらに低下させようと考えています。次に女性が、夫や両親や公的機関の意見ではなく、自らの意志で出産を決めるという権利を尊重することです。次に公的で安全な医療サービスの一つとして無料で妊娠を中絶するという事です。専門の医師により条件が整った専門の施設で行われなければなりません。1970年に最初に刑法が改定された際に、闇で妊娠中絶を行うことが違法とされました。

☆男女平等を保証する家族法の制定

また女性が、男性と平等な権利を有し、享受することも重視されるようになりました。1975年家族法が制定され、家族において両性の平等、権利、義務がうたわれました。これは重要な法律でこれまで3度改正されています。働く女性の母性保護法も制定されました。その法律で出産後1年間の有給休暇が保障されています。夫も育児を行う場合にはその間の賃金が支払われますし、祖父母も、両親が働いていることから育児を行う場合には年金の他に育児手当を受けるように改正されました。

現在出生率が低下することです。理由は、男女とも働き、学び、社会活動に参加することが多くなり、育児に咲ける時間が取れないことが大きな原因です。社会意識の発展により、

市民は家事、育児は女性だけでなく男性も同じ責任があるという意識が成長し、当然手当が支払われるべきと考えられました。これが女性のエンパワーメントから来たものです。といいますのは、男性は外で働き、女性は家の中で家事をおこなうという伝統的な考えでなく、女性も男性と同じく外で働き、社会活動も行うものであるという考えが出てきます。こうして出生率が下がりました。

☆セクシュアリティの探求

1972年 FMC の中に MINSAP、教育省、青年共産同盟の人々により全国性教育作業グループ (GNTES) が結成され、性教育を研究し始め、セクシュアリティについての探求が進展しました。1977年このグループは、国会における女性、家族、児童、青年の権利の平等問題委員会の諮問グループと認められました。このグループは国会議員に両性の平等について意見を述べました。このグループは私の母により作られたものです。1989年このグループは、全国性教育センター (Centro

Nacional de Educación Sexual) に発展し、保健相の諮問グループとなりました。この組織は、他の省庁との協力、市民社会との協力を進めました。CENESEX は、性教育の研究、性治療の研究、専門家の育成に貢献しました。CENESEX は、市民組織ですが、セクシュアリティの理論と方法の発展をめざし、全国性教育発展計画を推進するようになりました。CENESEX は、人々が健全、喜びに満ちた、責任あるセクシュアリティを



CENESEX 本部

もつように、国内のいろいろな機関と協力して社会への宣伝、地域住民との連携、性教育、性治療の問題に取り組みました。そうした中でジェンダーの問題も探求するようになりました。

1960年代、70年代、80年代女性の解放には文化的抵抗がありました。それらは映画、ポピュラー・ソング、小説、詩などの文化活動にも現れています。映画では、『テレサの肖像』、『ルシア』、『ある方法で』ポピュラー・ソング・グループのロス・バンバンの「男が台所で料理をしている」などです。1960年代から FMC の努力により妊薬、コンドームの使用も普及しました。予期しない妊娠、性病の感染などを防ぐためです。1980年代末 VIH が流行した際、フィデルの陣頭指揮のもとに迅速に対策が取られました。エイズの予防、エイズ感染者の治療、エイズ感染者の差別からの保護などが取り組みられました。キューバ人医師をパリに派遣し、VIH の検査方法などを検討しました。その結果、キューバは、ラ米でエイズ感染率が最も低い国となりましし、キューバ WHO が VIH の垂直感染を克服したラ米で最初の国と認定しました。VIH の感染予防には、キューバの各機関、国民が一体となって協力しました。この運動の中で性教育の関心が高まりました。

1990年に始まった「非常時」の経済困難で資材の不足する中で 1994年、国連の協力を

得て、雑誌『性科学と社会』が創刊され、キューバにおけるセクシュアリティの科学的調査、研究、普及が推進されるようになりました。同時に全国の大学で性教育学科、性科学学科が設立されました。FMC、教育省の中にもジェンダー、性科学を学ぶ分が設立され、こうして性科学の関心が全国民に広まる中で、様々な形で地域住民と連携して、住民が積極的に参加して問題に取り組むことが進められ、1994年にはグランマ県、地域住民との結びつきを重視した性教育の活動が行われました。この経験が CENESEX の新しい活動分野を開きました。様々な新しい住民参加の方法が作られ、住民の意見を収集する「社会の意見の収集過程」という方法が作られました。この問題について科学的な国際的な経験も学びました。そして 90 年代半ば、非常時の中でガソリンもなく、多くの困難を抱える中で、専門家の養成に力がそそがれ、科学的要素が強化されました。

☆LGBT 問題と向き合って

私は、1990 年私は、ハバナ大学教育学部の教授で、就学前の児童の性教育を研究していましたが、CENESEX で活動し始めました。丁度新たな住民と結びついた方式が追求されていた時でした。グランマ県に派遣され活動を行いました。このときすでにゲイについての調査をしていました。2000 年、所長に任命され、より直接に LGBT 問題に取り組むようになりました。所長に任命されたとき、トランスジェンダーの人々が、私に協力を求めてきました。警察から非道の扱いを受けたり、家族から白い目で見られたりして、悩んでいました。1988 年キューバで最初の性転換手術が行われましたが、世間の批判が強く、MINSAP は、中断されました。1979 年、あるグループが、私の母の指導のもとに FMS は性転換問題を検討し始めました。ドイツ人のハリー・ベンジャミン (1885 -1986) のマニュアルを採用しました。彼は、戦後米国に渡り、トランスジェンダーの研究を發展しました。彼の名は、ハリー・ベンジャミン国際性別違和協会として残されています。その後教育的、心理的な支援、性転換手術を支援しました。当初は性器の手術を行ったのみでした。

私は、社会的な観点からより問題を解決できると考えて、2014 年社会がトランスジェンダーをどう支援するかという論文で性転換手術者に精神的なオリエンテーションも必要と主張し、社会学博士号取得しました。私は、性の権利擁護、VIH 予防問題などの活動家でした。VIH 患者は、社会に入り仕事をすることができず、多くは売春婦となりました。彼女たちを VIH の予防推進の活動家として組織しました。彼女たちを教育し、私たちとともに活動するようにして、多くの売春婦が売春を止めました。彼女たちを協同組合にするために、セミナーを施し、仕事を見つけ。そして搾取されることのない自営業者となっています。売春は報酬がいいので、彼女たちは選んだのですが、性的商品となりました。商品は、権利も持っていません。

2007 年には CENESEX に市民法律相談部をもうけました。週 2 回相談日を開設しています。家庭内暴力、幼児性虐待、LGBT などの人々が訪問してきます。ほとんど相談を解決しています。しかし家庭内問題は難しいです。家庭内に入ることはできませんので。

毎年5月17日は国際反ホモフォビア・トランスフォビア・デーが一日開かれています、キューバでは、キューバでは、2007年から5月の一カ月を反対月間としてキャンペーンを行っています。ゲイの問題、ジェンダーの問題、性差別の問題などを提起しますが、住民を教育する、意識を向上させるのが目的です。

☆キューバ共産党も LGBT 問題と取り組み始める

共産主義は、マルクス、エンゲルスが推進したのですが、そこでは社会の変革、女性の解放がうたわれています。私は、社会の解放のためには共産党が必要だと思いますし、それはマルクス、エンゲルス、レーニンの古典を始め共産主義を豊かにした人々の思想にもとづいたものと思います。私は、党がこの問題でも活動すべきと思い、いろいろな提案をしましたが、理解してもらうには大変な努力が必要でした。しかし、最近の2回の党大会では理解が大いに進み、特に第6回大会では、党員はこの課題を理解し、すべての差別の撤廃の中に組み入れました。党が積極的に LGBT の差別に取り組み、差別を一掃する必要があります。これは、私の母、ビルマ・エスピスが願っていた夢です。母は、党の指導者としてこの問題を党に提起しましたが、実現することはできませんでした。しかし時とともに状況が変わり、また別な方法で提起し、それが達成されたのです。大事なことは、キューバ国民が反応し取り組むことです。現在市民は、社会正義に敏感になっています。老若男女を問わずこの問題を理解するようになっていきます。

社会主義は、文化の変換、意識の変換です。こうした変革は教育から生まれます。人種差別、性差別など意識の変換、人種の平等、両性の平等を追求しなければなりません。人種差別、性差別の解消のために努力がなされています。人種問題は、すでにキューバでは解決したという人もいます。しかし、依然として他人よりも自分がすぐれていると考える人がいます。革命の過程の中で、党の活動の中で私はこの問題を解決しようと思います。

☆革命の性格規定と LGBT 問題

現在討議されている経済・社会路線の中には、LGBT の問題が入っています。カイバリエンでは、保健機関の労働者ですが、性転換者が基礎行政区の議員として選出されました。2007年再び性転換手術が行われるようになりました。毎年5-7件手術が行われています。すべて無料ですが、性転換手術者は、IDカードも完全に変更することができます。同性間の結婚は、キューバでは法的には認められていません。依然として抵抗があります。それには憲法の修正が必要です。同性の結婚は、異性結婚と同じ権利をもつべきです。

日本の読者にメッセージをお願いしますというと、マリエラさんはしばしじっと考えて次のように述べました。

「完全な主権、平和、社会正義の実現のために引き続き闘ってください」。

(2017年4月 新藤通弘)